



やまざき くにおひろ
山崎 邦廣 議員

問 文化的観光資源の活用策は

答 保存継承と合わせ検討を推進



浦子内地区で行われていた村営の水力発電所
(大正時代)

資源活用の考え方

議員 町の伝統文化など文化的資源活用の基本的考え方を伺う。

町長 町の観光客入込数は、令和元年度に約49万8千人であったのに対し、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受け、約18万人にまで落ち込んでいる。

そうした中、平成28年に設立のくずまき観光地域づくり協議会で推進する「サイクルツーリズム」の取組みでは、塩の道や七滝、馬

淵川源流などの史跡、文化財、名勝地などの地域には無い観光資源や文化的資源を活用し、町内を広く周遊できるモデルコースを設定し、誘客につなげている。また、伝統的イベントの一つである「くずまき秋まつり」においては、葛巻神楽、七つ物、葛巻さんさ踊りなどを楽しむことができ、ほか、平成29年度からは、町外からの観光客が山車組に参加し秋まつりを体感できる取組みを支援するなど、更なる誘客に取り組んでいる。

想定する活用方法

議員 文化的資源を役立てる具体的方策を伺う。

引き続き、地域資源を活用した観光資源の開発に努め、誘客や交流人口の拡大につなげていくとともに、新たな観光資源として、先人から受け継がれてきた伝統文化、あるいは地域の風土や歴史を感じることができ、貴重な文化的資源の活用を検討を進めたい。

町長 地域の伝統文化を維持保存・継承していくことは、風土や歴史を後世に引き継いでいく上で、最も重要な取り組みであり、伝統文化に対する理解を広めることはもとより、後継者の育成、町内外にその魅力を伝える機会の創出など、様々な取り組みが望まれている。

また、これまでも、町民まつりやまちなかイベントなどにおいて発表の場創

出のほか、郷土芸能の保存・伝承の重要性から平成24年度に「葛巻町郷土芸能団体連絡協議会」を組織するとともに、平成26年度からは「葛巻町郷土芸能発表会」を開催し、多くの方から観覧いただくなど、その活動を支援してきた。一方で伝統文化など文化的資源を観光資源に生かしていくためには、観光客等に対する安定的なサービス提供体制の整備が重要で、特にも、取組みを支える後継者の育成や、伝統文化の一層の磨き上げが重要であり、さらに検討が必要とされている。こうしたことから、伝統文化など「文化的資源」を観光資源として役立てていく具体的方法については、関係機関・団体の皆さんと専門的な知見を交えながら、保存継承と合わせて観光資源としての在り方について協議・検討を重ねたい。



しばた いさお
柴田 勇雄 議員

問 介護等高齢者福祉向上対策について

答 実態把握に努め、介護予防を推進

高齢化が進む当町の現状

議員 高齢者の一人暮らしの現状と今後の動向は。

町長 令和3年4月1日現在の当町の人口は、58

18人、うち65歳以上の高齢者の人口は2784人で、高齢化率は47.9%である。また、世帯数は2692

世帯、うち高齢者の一人暮らし世帯は、施設入所者を

含め773世帯で、28.7%であるほか、高齢者のみで構成される世帯は4

64世帯あり、17.2%で、これらを合わせた高齢者世帯は1237世帯、45.9%となる。

現在、総世帯数の約半数が高齢者世帯となつてい

るが、人口減少に伴い高齢者の人口は減少に、高齢者世帯は更に増加していく

と見込んでいる。

議員 「老老介護」、「認知介護」の実態と対応は。

町長 65歳以上の高齢者が、65歳以上の高齢者を介護している「老老介護」の実態は、令和2年度の調査

で61世帯を確認している。また、認知症の要介護者を認知症の介護者が介護

している「認知介護」の実態は、介護を必要とする状況に至った主な原因の17.4%が「認知症」であることから、「認知介護」の世帯も相当数あるものと認識している。

こうした実態への対応として、在宅介護支援センターによる「高齢者実態把握調査」のほか、町による認知症早期発見に関する「スクリーニング事業」、保健師による「訪問活動」、民生委員や地域安心生活支援員等との「情報集積・連携」などに取組み、実態把握に努める。

併せて、介護者のレスパイト(※)の確保、在宅での生活を継続しながらの介護保険サービスの利用のほか、介護予防に向けた取組みも進めていく。

※レスパイト…休息、息抜き。

議員 介護施設への入所希望待機状況と、入所要件が要介護3以上となつた特別養護老人ホームへの入所状況は。

町長 令和3年6月18日現在、町内の施設別入所希望待機者は、高砂荘・すみれ荘で74人、アットホームくずまきでは72人、グループホーム和やかくずまきでは1人、介護療養型医療施設葛巻病院では待機者ゼロとなっている。

また、特別養護老人ホームへの入所状況は、高砂荘は55人定員に対し55人、すみれ荘は20人定員に対し20人入所している。



お弁当と牛乳を配達しながら、高齢者に声をかけるボランティア